



# 青南を みんなの 心のふるさとに 心の根っこを育てよう

令和2年度

港区立青南幼稚園  
園長 新山 裕之

## ＜今年度もよろしくお祈いします＞

今年度も園長を務めさせていただく新山（あらやま）です。どうぞよろしくお祈いします。今年度は、新型コロナウイルスの影響から、3月から5月末まで臨時休園が続く異例の事態となりました。一方で、シンボルツリーの桜や楓（かえで）は3月から4月にかけて、美しい花や青々とした若葉を私たちにを見せてくれ、心を和ませてくれました。ホームページの小さなコラム「みちくさいたずらこどものじかん」でもお知らせしているように、園庭の自然は、それぞれの命の営みを続けています。

## ＜常に笑顔で、前向きに＞

子どもたちが毎日幼稚園に元気に通って来ることは決して当たり前ではないと話してきました。そのことを今年度は誰もが実感しています。物事を前向きに受け止める構えが大事だともお伝えしてきました。幼稚園における遊びや生活は、人との関わりが前提のものばかりです。子どもの視線に合わせて気持ちに寄り添って、触れ合いを大切に…。感染予防の観点からは難しいことばかりですが、プラス思考で対応していきます。

## ＜青南を みんなの 心のふるさとに＞

自然から教えてもらうことは山のようにあります。4月にはたけのこがぐんぐん生長しましたが、それを支えているのは、この直径3～4cmもある太い根っこです。この根っこがあればこそ、勢いよく伸びる竹があるのです。幼児期は、人としての根っこを育てる時期です。土作りや水やりなどはしますが、育つ力は子ども自身の内にあるのです。皆さんと一緒に今年できることを考えながら「青南を みんなの 心のふるさと」にしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈いいたします。

### 青南の 二十四節気

勤務する園の自然や季節の移ろいを「二十四節気」に合わせてお知らせし続けて15年余りになります。

身近な自然の変化に気付く心は、子どもの心のサインに気付く感性を磨くことにもなると思ひ、続けている園だよりの巻頭言の中に掲載している小さなコラムです。今年度は、それを膨らませて、「七十二候」に合わせて『みちくさいたずらこどものじかん』という小さなコラムも発行しています。身近な自然から感じたこと、それにかかわる子どもたちの姿、子育ての支援になることなどを紹介していきます。

都会であっても、時々の季節感を身近な自然から感じることはできます。自然の営みや移ろいを感じ取るセンサーの感度を上げていきたいものです。そして、表参道・南青山の街で出会うことができる自然とのかわりや自然からの贈り物をうまく取り入れていくことで、大人も子どもも感性を磨き、遊びや生活を豊かにしていきたいと思ひます。



桜と楓（かえで）は今年も元気でした



ぶうちゃんと園内の自然を紹介しています



子どもの心に寄り添うことが保育の基本です



竹の根は太く広がり、枝葉を支えています

### みちくさいたずら こどものじかん 令和2年 4月 00日 新山 裕之

清明（4日）― 園庭の花が鮮やかな影を落とします。――  
園庭でも、園庭に咲く可愛らしい花などに出会う機会はたくさんあります。港区は園庭と自然が豊かです。勤務する園の自然や季節の移ろいを「二十四節気」に合わせてお知らせし続けて、すでに15年近くになります。身近な自然の変化に気付く心は、子どもの心のサインに気付く感性を磨くことにもなると思ひ、続けているコラムです。「青南の二十四節気」も4月号を添えます。この小さなコラムが、皆さんの身近な自然の変化に思いを寄せささぐりつなげたいと思ひます。

＜二十四節気七十二候＞  
園だよりの巻頭言の中に「青南の二十四節気」という小さなコラムを掲載しています。初めに整理編になってお話しした春期・幼稚園の自然環境が豊かで、季節の移り替わりがとても感動的で、そのときから二十四節気にも自然な文章を綴り始めるのです。元々、自然との関わりを大事にして育ちてきたことあるが、季節の移り替わること、教えてとて子どもと大人と繋いでいます。見出しがない今こそ、身近な自然に目をかけてみると、意外なところに発見があると思ひます。

＜玄鳥至 つばききたる（4月4日～8日）＞  
一帯を二十四節気と季節に分けたら、二十四節気です。今は、その中の清明です。そして、それをさらに細分化したのが七十二候（しちじふにこう）です。清明の中の最初の五日目、玄鳥が「玄鳥至」といふ季節です。この頃にはまだ春ですが、朝晩は涼しくなると、影から影までの間のこの五日目にツバメが来て、子育てをしています。今は新しい日になり、今後はやってくるかどうかは分かりませんが、幼稚園に飛んできてくれる大歓迎です。

＜家庭は生活学が学校です＞  
真ん中で育ちながら生活が大切なことがたくさんあると思ひます。幼稚園にも大人も生活学は、遊びですが、同じように大切なことがあります。それは生活です。今回、家での生活をお話しましたが、逆に、家の中の仕事を子どもたちが手伝ったり見たり、手伝ったりしてはいませんか？  
家庭学を学ぶと、子育ての楽しさや、子どもの成長を学ぶことが、何でもいいです。子どもと一緒に頑張ってみて、任せたいものはいっぱいあります。仕上げは大人がしてあげられるお話を、子どもが家業の一員として役に立っていると教えたらどうですか。どんなことも前向きに接していきたいでしょう！

